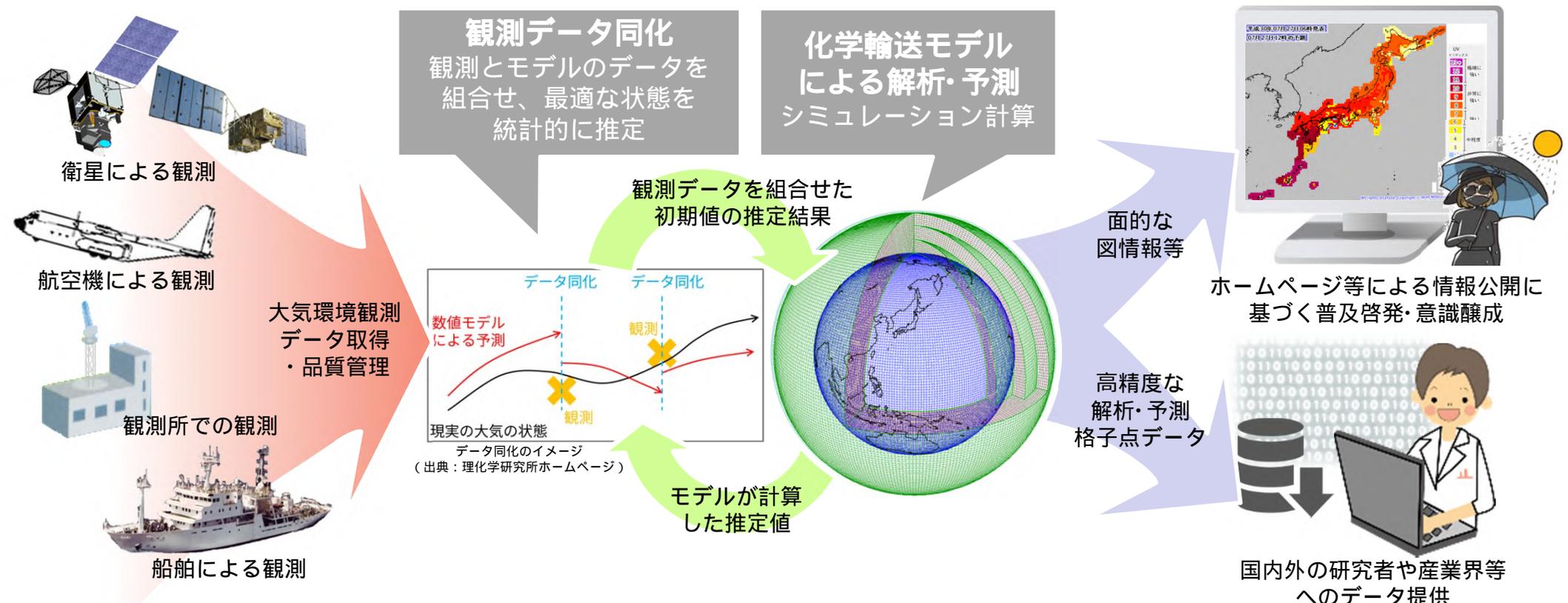


施策の概要

- 気象庁では、地球温暖化対策やオゾン層保護等の全世界的な取組の一環として、大気中の微量成分（オゾン層・エアロゾル・温室効果ガス等）を監視
- 地上、船舶、航空機や衛星による各種観測データを同化し、化学輸送モデルによる解析・予測を実施
- 解析・予測結果については、国内外に情報を提供



本施策による効果

- 地球温暖化対策やオゾン層保護等に関する普及啓発・意識醸成を通じ、安全・安心な国民生活に貢献
- 政府や自治体等における、気候変動の影響への適応策・緩和策の立案や、その推進に貢献
- 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) や気候変動枠組み条約 (UNFCCC) 等、国際枠組みへの貢献

各種大気中の微量成分に関する取組の進捗・成果と今後の計画の概要

オゾン層 紫外線

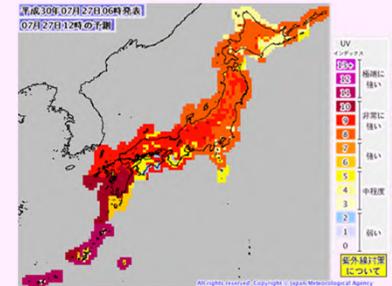
取組の
成果

米国衛星(スオミNPP)の成層圏オゾン観測データを同化
(2016(H28)年度)
紫外線解析分布図の毎時提供を開始(2017(H29)年度)

今後の
計画



今後、EUの衛星の観測データ等の利用を検討



紫外線に関する情報
(UVインデックス)

エアロゾル 黄砂

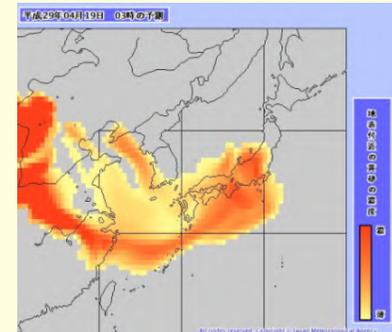
取組の
成果

黄砂予測モデルを高解像化(2016(H28)年度)
静止気象衛星「ひまわり」8・9号のデータ同化による黄砂解析
予測図の提供に向けた開発を実施中(2019(H31)年度予定)

今後の
計画



今後、気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)の
観測データ同化を検討(時期未定)



黄砂予測情報

温室効果 ガス 二酸化炭素

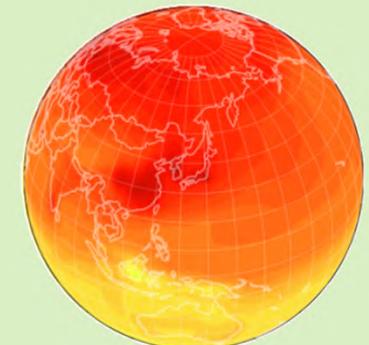
取組の
成果

地上・船舶・航空機における二酸化炭素濃度観測データを同化し
て濃度分布等を計算、二酸化炭素分布情報を公開
(2008(H20)年度～。順次拡充)

今後の
計画



今後、温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)
や同2号機等の衛星観測データについても
同化を行う計画(2021(H33)年度頃)



二酸化炭素分布情報